

No.3

2018.10.25
14:30

第41回 日本基督教団総会

2018年10月23日(火)～25日(木)

速報

† 総会速報発行委員会 発行

美 俊 然 雲
選 再 記 書

3日目、書記選挙は慣例に従い、議長・副議長により、雲然俊美現書記が推薦され、議場は承認した。

雲然書記は「まさか総会書記5期目をする事になるとは思っていなかった。いろいろな事情があり今回は受けるのは本当に辛い。けれども神の召しと受け止めたい。教団書記の務めは教規第15条にある通り、議長のもとに会議を整えることである。その会議はただの会議ではない。教憲に書いてあるが『イエス・キリストを首と仰ぐ』教会の会議である。教憲があり教規があ

る。会議が円滑に進むだけではなく、主イエス・キリストの主権が、そのご栄光が表されるようなかたちで会議を整えるのが書記の務めであると承っている。その働きに努めていきたい。ただ一人の力ではできない。ぜひ皆様にはお祈りしていただきたい。二つ目に教団の幹事・職員が本当によくやっている。そうであれば会議は持てないし、私の通常の働きもできない。その働きに感謝している。三つ目に私が仕えている秋田桜教会と兼牧している下浜教会の支えに本当に感謝している。秋田桜教会は10月10日に教会創立30周年を迎えた開拓伝道の教会である。30年で受洗者33名。地方にあって明るく一生懸命伝道している。その中で教団の全体教会としての在り方を伝道と共になしていきたいと思う。よろしく願います」と述べた。

雲然書記のために岩田昌路議員が祈禱を捧げた。

聖 餐 礼 拝

「あなたの未来には希望がある」

黒田若雄牧師(高知教会)による説教



主はこう言われる。ラマで声が聞こえる。苦悩に満ちて嘆き、泣く声が。ラケルが息子たちのゆえに泣いている。彼女は慰めを拒む。息子たちはもういないのだから。

エレミヤ書31章15～17節

せん。「報いられる」とは報酬をも指します。報酬とは、その人の働きと労苦が見守られていけばこそ、与えられるものです。神は、敗北を経験した民を今、見捨ててはおらず、今後も共にいられると明言されるのです。これは私たちと必ず共においでくださるとの、神の決意宣言です。神は主イエスをこの世に遣わしました。この証としてくださいました。この神が、主を信じる私たちを未来へと導き続けます。ここに希望があります。

預言者エレミヤの時代に

今年、創立130年を迎えた高知教会は、1945

イスラエルは、バビロンに大敗を期しました。神の民イスラエルにとって、敗北はあるはずのないことでした。神が共においでくださる民には、勝利し続ける未来しかなかったのです。民は、敗北と捕囚は、神に見捨てられたゆえだと受けとめました。民の真実の絶望は、そのために、今後の展望を持てなくなったことになったのです。

今年、創立130年を迎えた高知教会は、1945年7月に高知大空襲に遭いました。内部が全焼しましたが、その4日後の主日には焼け跡で数名が礼拝を捧げました。約1ヶ月後には、1名の受洗者が与えられたのです。主が絶望の中に与えられた光でした。人の目にはすべての希望が奪われたように見える中で、神は希望の光を与えられるのです。

この民に、神は語られます。「泣きやむがよい。あなたの苦しみは報いられる。」神は、いつか良いことがあるから今は耐えよ、と言われているではありません。

主のご計画にゆだね、必ず支え導いてくださる主を信じて希望をいただき、為すべき務めに全力をそいでまいりましょう。

第二日目 夜 部落解放劇

さようなら無関心－関係者でいこう！

そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。

(マルコによる福音書 15 章 21 節)



教団総会ごとに行われる部落解放劇が 50 分ほどの上演時間で行われた。

香澄さんと遙君、二人の教会青年が「部落解放青年ゼミナール」実行委員会に参加して劇が進む。遙君は部落差別問題について詳しくないが、香澄さんに誘われてはじめて実行委員会に参加する。委員会では、武牧師に導かれながら、今年の教団総会に上演する解放劇についての話し合いが始まる。差別問題をめぐる経験を寸劇の仕方で披露して解放劇に仕立てゆく。焼肉パーティーでの精肉業者の話。被差別部落に建つ学校に遣わされた教師の話。同和地区近くの極端に安い土地の売買を巡る話。演じられる寸劇と幕間に入れられた東谷誠センター運営委員長のワンポイントレッスンで差別問題の理解を深める工夫をする。

「寝た子を起こすな」と言うことで問題を避け、そのままにして忘れるのを待つことや、「部落分散論」と言われることによって、被差別部落を出て他のところに住まえばわからなくなる、といったことでは差別は無くならないことを指摘する。

部落差別問題に疎かった遙君も、他の実行委員たちと一緒に劇を準備してゆく中で問題の理解を深めてゆく。最後に「さようなら無関心－関係者でいこう！」という今年の解放劇の題が決まる。

青年たちは、信じることだけでは差別はなくならない、と信仰と差別問題に悩む。しかし、確かになくならないかもしれないが、信じることで問題に取り組むための力を持つことができるはずだ、と道を見出してゆく。「課題から信仰へ」ではなく、「信仰から課題へ」という信仰の秩序を教会の青年たちが発見することが印象に残った。劇中の青年たちにも、観劇する者たちにも差別問題の現実を知ってもらうため、高いハードルを下げようという工夫がいくつも見られた。

また台本を持った半朗読劇で長いせりふが多かったが、はっきりと聞こえ理解しやすく、効果的な BGM と相まって見る者を劇に引き込む力があつた。

常議員選挙結果について

速報の議場配付は間に合いませんでした。
速報 No.3 の Web 版では、ご覧になれます。

URL www.uccj.org